









特別寄稿 ライオン作家 千葉勇の祖父の地の謎 家伝刻む石碑にあり得ない記述

ブラジル宮城県人会会長 中沢宏一



千葉家の皆さんと例の石碑を囲んで記念撮影する文学アカデミー一行(石碑から左に2人が宮村会長)

登米は石巻から平泉への道中の中間地点で、千葉家を宿としたと...

宮村秀光氏訪日で判明

宮村秀光氏は仙台藩であり、手取藩東部を治めていた...



おくのほそみちのルート図。5月11日の登米で一泊。この宿泊地は北上川の西岸で、千葉家は東岸に...



松尾芭蕉像(葛飾北斎画、By Hokusai [Public domain], via Wikimedia Commons)

七編... 芭蕉の生涯について...

芭蕉は伊賀の出で、芭蕉と曾良は幕府の隠密説...

以下が例の石碑の碑文です。

千葉家逗留は「二セの芭蕉」か

千葉家に10日間も芭蕉の名を語り逗留したの...

「芭蕉の逗留」は、芭蕉の...

「芭蕉の逗留」は、芭蕉の...

「芭蕉の逗留」は、芭蕉の...

「芭蕉の逗留」は、芭蕉の...

「芭蕉の逗留」は、芭蕉の...

「芭蕉の逗留」は、芭蕉の...

ロシア疑惑で与党内からも糾弾

RPE Journal ロシア政治経済ジャーナル 北野幸伯 5月19日版

メールマガジン 「ロシア政治経済ジャーナル」 発行 北野幸伯



# ニッケイ新聞「勝ち組」異聞：ブラジル日系移民の戦後70年を読み解く



「勝ち組」異聞—ブラジル日系移民の戦後70年—(深沢正雪著、無明舎出版、2017年)

【本の要旨】「日本人」という民族を定義するに、移民をその「試験台」に活用できるのではと常々思っている。前任者・吉田尚則

元編集長からは「移民は大きな民族的実験だ」と聞かされたことも影響している。「日本社会の一部を占める」という行為が、ブラジル日本人移民史ではないかと思いついた。「5年で帰れる」と

「勝ち組」異聞—ブラジル日系移民の戦後70年—(深沢正雪著、無明舎出版、2017年)

「勝ち組」異聞—ブラジル日系移民の戦後70年—(深沢正雪著、無明舎出版、2017年)

## 承前啓後 ポルト・ヴェーリョとパウマス (30)

エジソンさんの説明は実に論理的だ。一年に大豆1回1500ヘクタール、トウモロコシ1回1000ヘクタール。枝や葉は全部、土に戻す。水は雨だけ。ここでは6カ月間、雨が降って、残りは乾期。この地域ではヘクター当たり50俵が平均だが、35俵取ればもう利益がある。今年はいよいよ1俵当り60%輸出している。今は

もう来年3月の収穫分の先物交渉を商社としている。最低限かかる経費分を先物で売っておくと、来年の生産の見通しが立てられるから。

「この広さだと州内では中規模、大規模にはいらない」と聞くと、「まあせいぜい中じゃあないかな。州最大規模の農家は1万8千ヘクタールとかあって、国全体で見れば、マツト・グロツッデになつたね」と喜んで



昨年11月に結婚40周年を迎えた馬場アヤ子さんと夫の和義さん

## 1500Haで中規模農家

「なんといつても開拓1年目が一番大変。最初の半年は家族から離れた、畑にバーリャ(椰子の葉の家)を作って、電気も水道もないところで、ヘージ(ハンモック)で寝て、労働者と一緒で開拓する。耐えきれないくらい暑い。最初にブルドーザー2台やトラクターを渡して、意味した。大筋としてブラジルに馴化、同化していく中で、日本人としての誇りを残したいという思いが、移民の家庭をリアルに想像できれば、日本人と外国人の違いを肌身で感じることもできる。移民はエリートではない。「どこにでもいる」一般市民が外国生活を始めることが移住の本質だ。そのような一般人が、いかに外国でも日本人らしく生活したいか、ブラジル日本移民の真骨頂だと思ふ。

日本人性を最大限に活用して、ゼロから始めてきたりでブラジル社会に貢献してきた日本移民たちの姿は、今から国際社会に飛び出すとする日本人の発想に役に立つモノではないか。評論家の大宅壮一は1954年に取次旅行のたのめに来た際、「明治の日本が見たければブラジルにいけ!」との名セリフを残したとコロンビア(日系社会)では伝えられている。

移民船が赤道を通過する際に「赤道」の赤道を「赤道」や運動会は、移住体験に欠かせないイベントだ。おなじ儀式を体験した同士の心理的結束は強い。

日本では学校の「同窓会」が一般的だが、移民にとっては「同船者会」という存在が別格だ。同じ船に乗り、同じ不安を抱えてブラジルにやって来たという共通の体験が、あたたかみを生み出す。さらには、戦友のような連帯感を生んでいる。

船を降りてセントスに上陸することは、その瞬間に、日本での学歴や家系、経歴をいったん断ち切り、人生のすべてを一新する。大きなきっかけとなる。

100メートル幅で一気に入る木をなぎ倒す。その根を一つ一つ抜き、石を全部拾っていく。これを1年以内にはやらないと採算が取れない。

数百ヘクタールを一年で開拓するのだから、昔のように斧で切っていくわけにはいかない。今の開拓方法はまったく近代化だ。

一行はパウマスの手工芸市場で買い物をして、夜は現地レストランで食事をした。同じテーブルに座った一行の馬場和義さん(77、佐賀県)は南米産業開発青年隊の5期生だった。午前中に訪問した巨大なるに違いない。

(※この本は1000ヘクタールの特産で、ニッケイ新聞編集部、移民史料館、太陽堂書店、竹内書店、高野書店でも好評販売)

★深沢正雪『勝ち組』異聞：ブラジル日系移民の戦後70年』の詳細はamazon購入はこちら http://amzn.to/2a1mDed

★深沢正雪『一粒の米も』死なずば：ブラジル日本移民100周年の物語。amazon購入はこちら http://amzn.to/2a1mDed

★深沢正雪『パラレルワールド：日本のブラジル人コミュニティ』の詳細はamazon購入はこちら http://amzn.to/2a1mDed

「臣道連盟」は「狂信者」というニュアンスを持っていて、基本的には、勝ち組が一方的に負け組を殺害したかのように描かれている。邦字紙で20年余り記者をする中で、その視点に対し、つねづね疑問をもってきた。

移民の家庭をリアルに想像できれば、日本人と外国人の違いを肌身で感じることもできる。移民はエリートではない。「どこにでもいる」一般市民が外国生活を始めることが移住の本質だ。そのような一般人が、いかに外国でも日本人らしく生活したいか、ブラジル日本移民の真骨頂だと思ふ。

日本人性を最大限に活用して、ゼロから始めてきたりでブラジル社会に貢献してきた日本移民たちの姿は、今から国際社会に飛び出すとする日本人の発想に役に立つモノではないか。評論家の大宅壮一は1954年に取次旅行のたのめに来た際、「明治の日本が見たければブラジルにいけ!」との名セリフを残したとコロンビア(日系社会)では伝えられている。

移民船が赤道を通過する際に「赤道」の赤道を「赤道」や運動会は、移住体験に欠かせないイベントだ。おなじ儀式を体験した同士の心理的結束は強い。

日本では学校の「同窓会」が一般的だが、移民にとっては「同船者会」という存在が別格だ。同じ船に乗り、同じ不安を抱えてブラジルにやって来たという共通の体験が、あたたかみを生み出す。さらには、戦友のような連帯感を生んでいる。

船を降りてセントスに上陸することは、その瞬間に、日本での学歴や家系、経歴をいったん断ち切り、人生のすべてを一新する。大きなきっかけとなる。

100メートル幅で一気に入る木をなぎ倒す。その根を一つ一つ抜き、石を全部拾っていく。これを1年以内にはやらないと採算が取れない。

数百ヘクタールを一年で開拓するのだから、昔のように斧で切っていくわけにはいかない。今の開拓方法はまったく近代化だ。

一行はパウマスの手工芸市場で買い物をして、夜は現地レストランで食事をした。同じテーブルに座った一行の馬場和義さん(77、佐賀県)は南米産業開発青年隊の5期生だった。午前中に訪問した巨大なるに違いない。

(※この本は1000ヘクタールの特産で、ニッケイ新聞編集部、移民史料館、太陽堂書店、竹内書店、高野書店でも好評販売)

★深沢正雪『勝ち組』異聞：ブラジル日系移民の戦後70年』の詳細はamazon購入はこちら http://amzn.to/2a1mDed

★深沢正雪『一粒の米も』死なずば：ブラジル日本移民100周年の物語。amazon購入はこちら http://amzn.to/2a1mDed

★深沢正雪『パラレルワールド：日本のブラジル人コミュニティ』の詳細はamazon購入はこちら http://amzn.to/2a1mDed



アルゼンチンのマクリ大統領(左)を迎える安倍首相

## 投資協定締結へ協議 日アルゼンチン首脳

【共同】安倍晋三首相は19日、アルゼンチンマクリ大統領と官邸で会談した。投資協定の早期締結を巡り協議。外交関係樹立120周年を2018年に控え、人的交流の促進も確認するとみられる。

会談冒頭で首相は「強由で開放的な改革を推進し、南米をけん引していることを高く評価する」と表明。マクリ氏は「戦略的パートナーとして関係を構築できることは光栄だ」と応じた。

アルゼンチン大統領の来日は1998年以来。安倍首相は昨年11月、日本首相として同国を57年ぶりに公式訪問し、投資協定締結などを通じた関係強化で一致した。

首脳会談に先立ち、岸田文雄外相はマクリ氏に同行したマルコラ外務次官と会談し、アルゼンチンが進める経済改革への評価を伝えた。マクリ氏は20日に天皇、皇后両陛下と会見する。

作試験を行う。ソフトバンクは山口県宇部市の私有地で、自動運転技術を使ったトラクターの隊列走行を実験する。複数の無人運転のトラクターをけん引し、車両間や車両と運行管理センターを5Gの通信でつなぐ。NTTドコモは、東京都墨田区の東京スカイツリー周辺や和歌山県、映像配信や遠隔医療の実験を予定。NTTコムは、2ヶ国2都市、栃木県と静岡県と連携し、栃木県などへの映像配信を実証する。

【共同】総務省は16日、超高速度通信が可能な5G世代(5G)の移動通信システムの実証実験を全国各地で始めること発表した。高精度な映像配信や自動運転、遠隔医療といった分野で2020年の実用化に向けた課題を探る。来年3月まで、KDDIは、国際電気通信基礎技術研究所と協力して、屋内スタジオ実験の4K映像の配信実験を沖縄県で実施する。大林組とは埼玉県で、災害復旧現場などの利用を想定した建設機械の遠隔操

まくまくメルマガ 『国際インテリジェンス機密ファイル』 http://www.mag2.com/m/0000258752.html 公式ブログ 『国際インテリジェンス機密ファイル』 http://ameblo.jp/jyoho2040/ 【発行】国際インテリジェンス研究所

Shiatsu 指圧・整体・針灸で 腰痛ヒザの痛み、首の痛み、坐骨神経の痛み Prof. Minoru Kohakura Tel: (11) 3262-0835 Av. Paulista, 509 Sala 7 (メトロ・ブリガデイロ近く)

NEOVISIE Oftalmologia 中野眼科 ブラジル眼科学会認定の眼科専門医 5548-7802 白内障・緑内障・糖尿病や高血圧に対する網膜病、レーザー光線での近視・遠視・乱視の手術 CIRURGIA de CATARATA, GLAUCOMA, TRATAMENTO de DOENÇAS da RETINA, CIRURGIA a LASER 日本語が通じて安心出来るスタッフが対応します。 Rua Machado Bittencourt, 205 Cj. 93 Vila Mariana METRÔ STA. CRUZ 駅より徒歩約2分です。

CLÍNICA MÉDICA ORIENTAL NAKATA Admite-se estagiário(a) 研修生募集中(男女) 寝ちがいが、首・肩・腕の痛み、腰痛、ギックリ腰、坐骨神経痛は SADAKAZU NAKATA PhD CIÊNCIAS ALIADAS DA SAÚDE TEL: (11) 5571-4113 / (11) 5083-6756 Rua Baltazar Lisboa, 391 - CEP 04110-061 - V.Mariana - São Paulo - SP

サンパウロ日伯看護協会 リベルターデ医療センター ENKYO 日本語で対応します 受付時間 月～金 07:00～18:30 土 07:00～12:30 人間ドック受付 月～金 07:00～16:00 人間ドック、診察と検査(内科及び各種専門科)、歯科 各種健康保険取り扱い扱っています(日本の保険各種) 日本語の診断書を発行します お問合せ: (11) 3274-6555 ご予約(内科以外の各専門科): (11) 3274-6508 (11) 3274-6595 人間ドック: (11) 3274-6495 歯科: (11) 3274-6501 Adesão de novos associados 新会員募集: (11) 3274-6523 Rua Fagundes, 121 - Liberdade - São Paulo - SP www.enkyo.org.br

補聴器専門店 リベルターデ ORIENT AUDIO APARELHOS AUDITIVOS 補聴器を使っても効果が良くない? 私達が解決致します! 品質と適正な価格(山本パトリア) CRFa 2 - 16125 Tel.: (11) 3340-9190 Rua Galvão Bueno, 412 cj.29 Liberdade Próximo ao Nikkey Palace Hotel

A VERDADE SOBRE A GUERRA DO PACÍFICO 太平洋戦争の真実をポルトガル語で 真珠湾攻撃以前に為された対日軍事行動 開戦前に承認されていた日本の市民への爆撃計画 日本への経済封鎖という戦争行為 アメリカ自身すら認める東京裁判の不当性 など R\$50 ニッケイ新聞編集部・日系書店で販売中! 太陽堂(11)-3208-6588 高野書店(11)-3209-3313 フォノマギ竹内書店(11)-3104-3399

とんこつ

しんけんしょうぶ

東旺

豚骨ラーメンで真剣勝負

伯国場所、目指す金星

試験開店、日独で5年修行

現役時代「東旺」として幕下まで上った森田泰三(39、二世)。引退後に第二の人生の舞台として選んだのはラーメン業界だった。日本の有名店で3年、ドイツでも2年修行して経験を積み、当地にラーメンブームを起したのを見て、激を持って試験開店を始めた。相模原市のちゃんこ作りで鍛えた腕前にさらに磨きをかけ、聖市ラーメン戦争に乱入する勢いだ。



こだわりの豚骨ラーメン(32レアル)

森田さんは聖市で生まれ、16歳で玉ノ井部屋に入門。後の大関・栃東らと共に厳しい稽古を重ね、04年夏場所では三段目で全勝優勝を果たし、26歳で幕下に昇った。だが翌年、今までのケガやこれからの人生について考えた末に引退



森田さん

を決意。12年間の力士人生に終止符を打った。ラーメンに興味を持つたきっかけは、「九州場所」で食べた豚骨ラーメンの美味しさが衝撃的だった。東京でも食べ歩いて人気豚骨ラーメン店「ばりこて」の店に引退後の一時帰郷中に同店での住込み修行の約束を取り付け、再訪日後は朝10時から夜中

大目小目

森田さんのこだわり豚骨ラーメン。豚骨の本場・博多ラーメンはブツツと切れる極細麺が特徴だが、今回は使われていない。「ゆつくりと食事をする人の食文化の中で伸びて美味しさを身に付けていた。3年間で本格的なラーメン作りの技術、切り盛りの仕方などを習得するに必要不可欠な技術を身に付けていた。伯国でラーメン店を経営を夢見ていたがグッとこらえた。「まずは外国人向けのラーメンとは何かを知るべき」と考え、ドイツのデュッセルドルフのラーメン屋「匠」でさらに2年働いた。

正心館落慶7周年

感動を共有する式典に 宗教学者「幸福の科学」(大川隆法総裁)の長は、落慶7周年記念式典を21日午前10時から同館(Rua Domingos de Morais 1154, Vila Mariana)で行う。日本国外の拠点として最大で、中南米布教の中心地として落慶した同館。地下2階から地上4階まであり、6000人収容可能な荘厳で巨大なドーム型の礼拝堂には、金色に輝く本尊エル・カスターレが安置される。村田本部長は、「セミンナーや祈願を通して、体験的な気づきを得て人生が変わった信者がたくさんいる」と同館を通じてい

20日開幕、日本館と文協

着物ショーなど多彩な8日間 日本館では20日午後5時から21日午後5時までの期間、折紙、生け花などの体験教室のほか、20、21日の午前11時、午後3時に茶道といきいき体験発表が行われる。入場料は5レアル。24日には午後7時半から文協多目的ホールで「着物ショー」が行われ、お早めに連絡を



茶道の体験コーナーの様子(文協提供)

ブラジル日本文化福祉協会(呉屋春美会長)が「第11回文化祭り」を開催する。20日午後5時にイビラエラ公園内の日本館(Av. Pedro Álvares Cabral, Vila Mariana)で、28日に文協ビル(Rua Sao Joaquin, 381)で華道や茶道など日本文化の紹介や体験が行われる。

全伯王将棋大会は6月3日

学生将棋大会は6月3日 全伯王将棋大会(吉田国夫会長、主催)の第45回全伯王将棋大会が28日午前10時から、第12回学生将棋大会が6月3日午前8時からリベルターデの同連盟会館(Rua Calvario Bueno, 19)で開催される。28日は王将棋をはじめ、5段以上、4段戦、3段戦、2段及び初段戦のほかに、各戦入賞者にはそれぞれトロフィーと賞品が授与される。また、学生将棋大会は例年と同様にジェメス・デ・トレド5段と鎌田ジュリアナ3段が指導して大会を進める。出場希望者は会費50レアル(弁当、菓子付き)が必要だが、学生将棋大会出場者は無料(食事なし)。



鎌田3段と吉田会長

PERFUMARIA TAKEO 化粧品専門 たけお店 二九四一九三三

kenko hirose 健康食品 プロポリス・アガリクス専門店

プロポリス専門店 ムラサン健康食品 MURASAN PRODUTOS NATURAIS

サンパウロ日伯看護協会 日伯友好病院 ENKYO 最新設備と専門スタッフを備えた 日伯友好病院は真心込めた医療を あなたへお届けします

おかげさまで落慶7周年 心より感謝申し上げます。 Happy Science do Brasil Templo Shoshinkan

Projeto Realização do Sonho The Nippon Foundation Bolsa de estudos no Japão 31 de julho de 2017

**Coreia do Norte** 15/05/2017

## Impacto do lançamento de míssil pela Coreia do Norte

Neste Comentário, Masayo Nakajima, jornalista político da NHK World fala sobre o lançamento de míssil feito domingo pela Coreia do Norte.

“Acredita-se que ao lançar o novo tipo de míssil num momento de intensificação da pressão a que é submetida pela comunidade internacional, a Coreia do Norte pretenda exibir ao mundo o aprimoramento da sua tecnologia na área. O objetivo também seria mostrar, para os Estados Unidos e as várias nações relacionadas, que não tem absolutamente intenção alguma de abandonar o seu programa de desenvolvimento nuclear e de mísseis.

Pouco se duvida que a Coreia do Norte também tenha em mente o recém-empossado governo sul-coreano de Moon Jae-in. O país adotou uma atitude de esperar para ver antes e no dia da eleição presidencial na Coreia do Sul, no dia 9, do mesmo modo que fez na eleição para a escolha do novo presidente dos Estados Unidos em novembro. Fez uma pausa de 15 dias até a chegada ao poder, na Coreia do Sul, do governo progressista que tanto aguardara — depois de um intervalo de nove anos — para só então lançar um míssil balístico. A Coreia do

Norte pode ter mais um motivo adicional. Estaria tentando verificar o modo como vai reagir o governo de Moon, político que havia se comprometido a adotar uma atitude conciliatória em relação a Pyongyang. Ao mesmo tempo, pode também estar embaralhando a situação com o fim de ter a iniciativa no relacionamento com Seul antes que quaisquer medidas sejam tomadas para a realização de um diálogo.

Por sua vez, a China deve com certeza se sentir indignada e confusa com o lançamento do míssil por Pyongyang no primeiro dia do encontro internacional que Pequim considera a sua mais importante conferência do gênero. Não só isso: o lançamento foi programado para se realizar poucas horas antes de um discurso do presidente chinês, Xi Jinping. Não acredito, contudo, que o lançamento venha, por si só, a afastar a China da sua política fundamental de solucionar o problema através do diálogo e da pressão. A posição de Pequim será a de acenar com a possibilidade de intensificar a pressão para forçar Pyongyang a abandonar o seu programa nuclear. Vai pacientemente persistir em seus esforços para tentar forçar a Coreia do Norte

a ter um diálogo diplomático.

Quanto aos Estados Unidos, já é o sétimo lançamento de míssil desde o início do governo do presidente Donald Trump. Washington irrita-se cada vez mais com os atos de provocação de Pyongyang. Segundo especialistas, o míssil de domingo pode ter assinalado um importante passo adiante no desenvolvimento de um míssil balístico intercontinental que põe Washington em estado de alerta. Um porta-voz da Casa Branca salientou que o mais recente míssil norte-coreano caiu em uma região perto da Rússia, país que se mostra relutante em aumentar a pressão sobre a Coreia do Norte. Quis assim alertar Moscou de que o governo russo não poderá mais se manter à margem da situação e instá-lo a tomar novas medidas a respeito. O governo Trump disse não descartar a possibilidade de ter um diálogo com Pyongyang — gesto do qual teria, acredita-se, se afastado por enquanto. A posição de Washington é a de continuar a intensificar a pressão diplomática e econômica e de formar uma coalizão internacional, enquanto aguarda para ver se Pyongyang mudará ou não de atitude.”

**Devolução de Okinawa** 15/05/2017

## Província de Okinawa completa 45 anos desde sua devolução ao controle japonês

Esta segunda-feira marca o aniversário de 45 anos desde que Okinawa foi devolvida ao controle japonês após anos de administração americana. A economia da província, localizada no sul do Japão, cresceu desde 1972, mas as tensões entre os governos central e provincial têm aumentado. A fricção se deve à relocação da Base Aérea de Futenma, pertencente ao Corpo de Fuzileiros Navais dos Estados Unidos.

O governo central está tentando fazer a transferência da base dentro da

província, mas Okinawa se opõe. O impasse tem dificultado a devolução de outras instalações militares americanas na província ao controle japonês. Moradores de Okinawa consideram abrigar tais bases um fardo, mas os esforços para reduzir drasticamente tal peso não tiveram sucesso até o momento.

As ilhas de Okinawa passaram a ser controladas pelos Estados Unidos ao fim da Segunda Guerra Mundial, mas foram devolvidas ao Japão em 15 de maio de 1972. Após a devolução, o governo

central direcionou fundos para o desenvolvimento de sua economia, de forma a diminuir as diferenças entre a província e o resto do Japão. Como resultado, a economia de Okinawa cresceu, principalmente sua indústria do turismo. Em março de 2015, a receita total da província era oito vezes maior que a registrada em 1972.

Além disso, diminuiu a dependência econômica de Okinawa em bases americanas. Segundo o governo provincial, forças militares americanas representam 5,7% do total das receitas de Okinawa. No entanto, a província abriga cerca de 70% das instalações militares no Japão, e acidentes e crimes causados pelas forças militares dos Estados Unidos e seus funcionários continuam a ocorrer.

**Princesa Mako** 17/05/2017

## Pessoas mostram contentamento com promessa de casamento da Princesa Mako

**As notícias circuladas sobre o anunciado noivado da princesa Mako do Japão com um jovem que conheceu durante seus estudos na universidade se transformaram em uma surpresa agradável para aqueles que os conhecem.**

A princesa Mako é a filha mais velha do príncipe Akishino e sua esposa, sendo a primeira neta mais do imperador e a imperatriz.

A Agência da Casa Imperial e outras fontes disseram que a princesa se tornar noiva de Kei Komuro, que trabalha para uma companhia de assuntos jurídicos. Ambos têm 25 anos de idade. Eles se encontraram há cinco anos como estudantes da Universidade Internacional Cristã. Durante seus dias de universidade, Komuro

participou de um evento desempenhando o papel de ‘príncipe do mar’, em uma campanha turística para a Cidade de Fujisawa, no sul de Tóquio.

Rina Namikawa também trabalhou para a mesma campanha. Ela disse que ficou surpresa porém emocionada ao ouvir a notícia. Congratulando o casal, Namikawa disse que Komuro é uma pessoa generosa e amigável, e que o título ‘príncipe do mar’ é um título adequado. Ela disse que o

casal parece estar muito bem quando juntos.

O reitor da Universidade de Osaka de Turismo, Osamu Akagi, conheceu a princesa Mako quando ela era ainda criança. Akagi disse que ficou surpreso ao ouvir notícia do noivado. Ele disse esperar que ela venha a criar uma família feliz e que venha a ser admirada por sua geração.

Fontes bem informadas adiantam que o casamento deverá acontecer no ano que vem.

**Okinawa** 14/05/2017

## Manifestantes fazem passeata contra relocação de base militar dos Estados Unidos em Okinawa

Grupos civis e sindicais fizeram passeata em Okinawa pelo impedimento da transferência de uma base dos fuzileiros navais dos Estados Unidos.

O protesto é realizado todos os anos por volta do dia 15 de maio, o dia em que o domínio dos Estados Unidos sobre Okinawa teve fim e a província foi devolvida ao Japão em 1972.

Os participantes se dividiram em 2 grupos e começaram a passeata na sexta-feira. Eles também exigem o fechamento das bases militares dos Estados Unidos na província. No final do dia de domingo, uma manifestação foi realizada perto do distrito de Henoko, na cidade de Nago, onde a construção de uma nova base está em andamento.

Os organizadores dizem que cerca de 2 mil pessoas participaram da manifestação.

O prefeito de Nago, Su-

sumu Inamine, conclamou os participantes a lutarem pela restauração da democracia e autonomia de Okinawa, e disse

que vai manter seu compromisso de não permitir a construção da base em Henoko.

### Aplicativos gratuitos da NHK WORLD

Rádio em português da NHK a qualquer hora em qualquer lugar!

**NHK WORLD RADIO JAPAN**

\*Para Android e iOS



TV em inglês em 24 horas

**NHK WORLD TV Live**

\*Para Android, iOS e Kindle Fire

